

# 組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume

4

Number

2

2014年4月25日

## 組紐・組物学会行事（終了分）

2013年 8月23日(金)	10:00～16:00	第2回京都ワークショップ「組紐ディスクでBraid-in-braid」多田牧子
2013年 8月24日(土)	9:00～12:10	第2回京都レクチャー「検定対応」多田牧子
2013年 9月14日(土)	10:00～16:00	第3回東京ワークショップ「円形唐組」亀井三枝子、相原日出子
2013年10月 9日(土)	10:00～15:00	特別ワークショップ「丸台で作る豪華なビーズ組紐ネックレス」A. ガスケル
2013年10月11日(金)	10:00～12:00	第3回京都ワークショップ「クテ打」木下雅子
2013年10月12日(金)	9:00～13:00	第3回京都ワークショップ「クテ打」木下雅子
2013年11月 9日(土)	10:00～16:00	第4回東京ワークショップ&レクチャー「クテ打」木下雅子
2013年12月 6日(金)	10:00～16:00	第4回京都ワークショップ&レクチャー「検定直前講座」多田牧子
2013年12月 7日(土)	9:00～16:00	第4回組紐検定試験（京都会場）実技試験
2013年12月 8日(日)	9:00～12:00	第4回組紐検定試験（京都会場）筆記試験
2014年 1月11日(土)	10:30～16:00	第5回東京ワークショップ「組紐プレートでスイッチング」多田牧子
2014年 2月14日(金)	10:00～16:00	第5回京都ワークショップ「円形唐組」多田牧子
2014年 2月15日(土)	10:00～16:00	第5回京都ワークショップ & レクチャー「円形唐組」多田牧子
2014年 3月15日(土)	10:30～16:00	第5回東京ワークショップ「組紐プレートでビーズ組紐」多田牧子

## 目次 Contents

## 2 組紐の本

大谷章夫・多田眞作

## 9 組紐・組物学会関連行事予定

### In this issue

**Bibliography of Kumihimo** Akio Otani and Shinsaku Tada 2

Forthcoming Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society 9

## 組紐・組物学会ニュースレター

第4巻第2号 2014年4月25日発行

編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター内 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

TEL/FAX : (075)724-7844 E-mail : inoda@kit.ac.jp

本印刷物と同じ内容は学会の Web でもご覧になれます。 <http://www.kumihimo-society.org>

# 組紐の本

A Kumihimo Literature Survey  
大谷章夫・多田眞作

## 1. はじめに

組紐に関する文献は大きく次の分野に分けることができる。伝統の組紐、組紐文化と組紐産業、現代の組紐、組紐複合材料などであるが、その書物の多くは絶版となっており、現在入手可能なものはあまり多くない。そこで本稿では、まず日本語で書かれた組紐に関する単行本について、写真、および簡単な内容を紹介する。写真は原則的に本の表紙を示しているが、表紙に目立った情報が無い場合は本の内部を用いた。書誌事項（表題・著者・出版社・刊行年・ISBN・頁数、定価など）のうち、刊行年は初版時のものとし、価格はこの時点の税別の定価である。また組紐複合材料については、海外の図書や論文も含め紹介した。なお文中では敬称を省略させて頂いた。

## 2. 伝統の組紐

### 2-1 研究書

組紐の研究書のごく初期のものとして、菅沼晃次郎・山木薫・太田藤三郎（1969）「くみひも」がある。組紐の種類・用途・構造・産地・製造・流通に関して包括的にまとめられており、実物の見本3点も附属している。

正倉院事務所編（1973）の「正倉院の組紐」は正倉院所蔵の奈良時代の組紐約354点について、道明新兵衛と山岡一晴が1968年から1970年に調査したものをまとめたもので、写真が99点と全ての紐の寸法と色彩（色名及びマンセル値）が記録されている。巻末には英文の要約が8頁ある。

山木薫（1978）の「くみひもの研究」は組紐の組織（本書では丸台の組紐のみ）、製法、生産について初めて体系的に書かれた書物である。著者は京都工芸繊維大学の教授を務め、現在の組紐研究の礎を築いた方である。

松本包夫・今永清二郎（1992）「組紐」は一見すると雑



誌の組紐特集のような体裁であるが、内容は図版、解説とも充実しており、監修者となっている東京・京都・奈良の国立博物館が所蔵する名品の素晴らしい写真が100以上掲載されている。

西城志郎（2003）の「秀衡公の組紐 - 中尊寺の組紐 -」は中尊寺の組紐として知られる藤原秀衡の組紐が何処で作られ、なぜ秀衡公の棺に収められたかについて考察し、組紐の歴史についてもページを割いているが、中尊寺組の制作技術を解説したものではない。

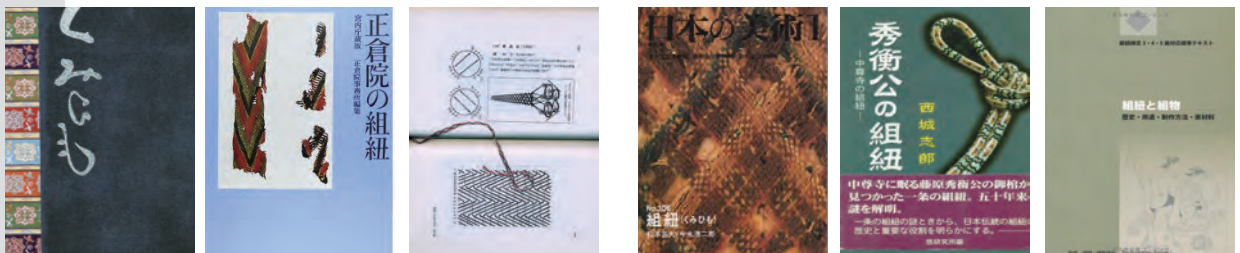
組紐・組物学会監修（2011）の「組紐と組物」は本学会の木下雅子元理事・多田牧子理事により執筆された組紐検定のための自習書である。組紐の歴史、製作法（道具）、材料、用途について学ぶことができる。

### 2-2 唐組

鷹司誓玉（1972）の「唐組平緒」唐組平緒に関する唯一の体系的な書物であり、組紐では唯一の人間国宝であった深見重助（1885-1974）の口述による序文も収録されている。

高田俊男（1974）解説の「スライド伝統工芸染織篇 13 唐組」には、唐組平緒に関連する画像（残欠、御神宝、博物館所蔵品、組織図、染色・制作過程）を納めた35mm ポジフィルムが付属する。書物としての管理をする限り経年による色彩の変化が避けられないため電子化が望まれる。

第一出版センター編（1981）「喜多川平朗・深見重助：重要無形文化財 有職織物・羅・唐組 人間国宝シリーズ 17」では、二人の人間国宝の仕事と人となりについて山辺知行、高田俊男、村瀬美樹が解説している。カラー写真は羅が49点に対し唐組平緒は10点のみである。唐組平緒の制作に要する時間と、作品が伊勢神宮に納められるために撮影が困難になることが分かる。





### 2-3 クテ打

木下雅子 (1994) の「日本組紐古技法の研究」は 1600 年以前の日本の組紐の殆どが、クテ打とよばれるループ操作で制作されていたことを広範な歴史資料の参照と復元作業に基づいて明らかにしている。正倉院の組紐や、製法が謎とされてきた西大寺、知恩院、速玉神社、春日大社、御嶽神社所蔵の平安・鎌倉時代の名品が、組台を使わず手だけで制作されていたと云う結論は合理的であり、組紐研究史の中で特筆すべき業績である。

木下雅子 (2010a, 2010b) のブックレットと DVD は、クテ打技法の保存・継承を目的として、クテ打組紐技法研究会が 2010 年度の日本芸術文化振興会の助成金を得て制作したものである。

### 2-4 伝統組紐制作の独習書と教本

組紐は 1970 年代に入ると、職人の世界から一般人の習い事へと広がりをみせ、組紐教室が各地で盛んになった。これまでとは異なる需要に応じて出版社や各流派の教本が現れるが、山岡一晴 (1975, 1976) 「道明の組紐」二巻、宇都宮千枝 (1975) 「くみひも」と酒井愛子 (1976) 「絵を見てわかる・くみひも 本科～師範科課程」の本が流派とは無関係に出版されている。

山岡一晴は道明の社長であったが、本書は流派の教本としてではなく、正統な組紐の範を示す為に上梓されたものであろう。宇都宮千枝は各流派への取材を元にしており、やはり組紐に関する一般的な関心の高まりに応える本を目指している。特に「絵を見てわかるくみひも」シリーズとして引続き日本ヴォーグ社から刊行された酒井愛子 (1977, 1978, 1980) および原野光子 (1979) は、自習書に特化する一方、どの組紐教室でも教本として使える様に工夫されていたため、それぞれが版を重ね、さらに複数の改

訂版を有するほど普及した。

1976 年以降に出版された、中内祥雄・原野光子 (1976) および原野光子 (1977) はせいじゅ工芸学院の、岡村加代 (著) 廣澤徳三郎 (監修) (1976) は小町くみひも学院の、日本伝統芸術協会 (1977) は白鳳組ひも教室の、長沼静 (1980) は長沼静きもの学院の、所鳳弘 (1978, 1980, 1983) は白鳳古式くみひもの、各流派の教本の必要に応えたものと思われる。

これらの本には組紐の歴史、制作の基本技術、丸台・角台・綾竹台等の組み方が少しずつ掲載されていたが、これに飽き足りない層のために、藤田昌三郎 (1981) による、組紐の柄のデザイン手法、酒井愛子・多田牧子 (1983) の綾竹台専門書、多田牧子による丸台の組紐 (1996a)、アングスの組紐 (1996b) の専門書が登場した。遠藤てる (2003) によれば障害者の機能回復のために丸台の組紐制作が活用されている。

### 2-5 高台の組紐

高台の組紐は、柄出しの設計図とも云うべき綾書きが、組紐教室では習熟段階に応じて開示されることが多い。長い教室通いを経て初めて全体像が把握できるものであり、初期の自習書は山岡一晴 (1976) 「伝統の組紐 道明の高台・綾竹台」以外にはほとんど見当たらない。

平田環 (1985, 1990, 2000) の写真集はほとんどが二枚物





で、それぞれの巻末には8～13の綾書きが付いている。

三浦弥生（1986, 1988, 1990）の三部作は写真よりも制作技術を主体とし、一巻には綾書きの作り方と演習用綾書き29種、二巻には綾書き18種、三巻には百人一首から4人の歌人の和歌の綾書きが収録されている。

多田牧子（1998a, 1998b, 2002）は第一巻を高台の歴史と一枚物39種の組み方に、第二巻を一枚物4種と二枚物28種の組み方に割り、第三巻では二枚高麗組62種、二枚安田組5種の組み方の他、綾書きの読み方と書き方についても説明がある。

### 3. 組紐文化と産業

#### 3-1 組紐のエッセイ

山本昌義（1927）の「組紐の研究」は組紐に関する文化史で、主に羽織紐について記載があるが、組み方等は全く書かれていない

老舗の組紐屋「道明」の7代目の道明新兵衛（1973）のエッセイ集「ひも」には、あらゆる紐に関する含蓄ある考察が集められ、アンデスの組紐と唐組の関係、両面亀甲組の復元など、後進が組紐の研究を進める上での多くのヒントを与えてくれる。

泰流社（1978）の「組紐—日本の美を組む伝統工芸 日本の染織」は組紐の美、歴史、職人技などについて堂本邦彦、山岡一晴、佐々木愛子、遠藤靖夫、海島隆、中谷寿志、大島史郎、深井理一、大田藤三郎が分担執筆している。

額田 巖（1986）は NEC の研究所長も務められた工学者であるが、道明新兵衛、山木薫とも交流があり、古今東西の紐に精通し、著書「ひも」には組紐の文化的側面が、結びも含めて縦横に語られている。

鈴木美登里（2012）がポーランドのクラクフ国立博物館所蔵の日本刀に下緒を寄贈したことに始まる交流を



綴ったエッセイ集「糸組みのみち-クラクフに惹かれて」には、唐組平緒の制作や道明方式の大丸台による両面亀甲組の復元、染色の苦勞が語られている。

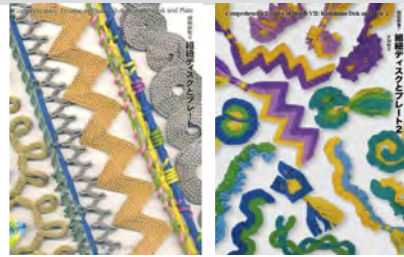
#### 3-2 組紐産業

菅沼晃次郎（1978）「京くみひも」には1886年に始まる京都糸物商工会を母体とする全京都組紐連合会の記録で、京都の組紐産業について元の資料の原本が再録されている。第6章「糸組物の伝統的作品」では、現在ではなじみの薄い用途に多くの組紐が用いられていたことが分かる。巻末には資料編として止戈枢要の組しゅん備考巻の1～3が収録されている。

土山弥太郎（1980）は東京組紐卸協同組合の理事を務めた方で、著書の「組紐 東京の帯締羽織紐」には東京の組紐産業について1907年頃からの歴史を記録している。また土山コレクションとして知られる組紐サンプルの写真が56頁ほど掲載されている。これらは後に東京農工大附属織維博物館に寄贈されている。

三重県組紐協同組合記念誌編集委員会 編（1989）の「伊賀くみひも伝承の譜」は、その創立40周年を記念して編集され、伊賀組紐と組合の歴史、伝統工芸師の紹介の他、1975年から1982年の全国及びの組紐生産高が手組・機械組別に、更には帯締・羽織紐別のデータが収録されている。





## 4. 現代の組紐

### 4-1 美術作品

組紐を用いたネックレスは数多く制作されているが、金属部分と組紐は明確に区分されるのが普通である。中山あや(1979)は金属塊に接合した金属糸と絹糸を互いに組むことで、金属と組紐が継ぎ目無しに融合する驚くべき作品を制作し、著書「組紐ジュエリー」にその写真と制作工程を収録している。

佐橋慶：編(1988)「EXQUISITE 新しい組紐の世界」は三重県組紐協同組合の企画による外国向けの「組紐」の紹介本で、本学会の廣澤浩一理事も東奔西走したそうである。コシノジュンコや大岡信など、組紐以外の分野の執筆者により組紐の感性的な面に光をあて、新しい分野の開拓を意図したものと思われる。

昨今、アメリカを中心に流行しているビーズ組紐は、組糸にビーズを通して組むことでビーズの配置が立体的になるのが好まれ、組紐は脇役になっている。柿元久美子(1995)は早い時期に組紐にビーズを取り入れ、著書「ゆめをくむ」にはビーズは組紐の引き立て役として繊細な組紐作品に仕上げられているのを見ることができる。

### 4-2 組紐ディスクとプレート

組ひもディスクおよび組ひもプレートは、組紐制作を気軽に体験できるよう、多田牧子理事とハマナカによって2001年に開発された新しい道具である。組紐は1970年代にはお稽古事の一つとして普及したが、この道具の登場により場所を選ばず(金属部品がないため電車・航空機内などでも可能)、費用もわずかな組紐制作が可能になった。多田牧子：監修(2002)「組ひもディスクでかんたん!組ひものアクセサリ(きっかけ本)」、(2004)「組ひもで作るアクセサリと小物」、(2006)「組ひもディスク

miniBook」、(2010)「組ひもディスク&プレートで作るかんたんミサンガ Book」、(2013)「かんたん組ひもアクセサリ」は組紐を初めて経験する方でも、何らかの作品を完成できることを目標にしており、ページ数も少なく安価なブックレットである。

同(2014)「かわいい組ひもの教科書」は2014年4月に刊行された新しい教本で、雄鶏社やヴォーグ社の一連の手始め用の本と、テキスト社の専門書との間に位置する。簡単な組紐ディスクから始めて丸台に至る道筋が示されており、組紐の普及と伝統の組紐に対する関心を高めるものと期待される。

多田牧子(2007)の「組紐ディスクとプレート」、同(2013)「組紐ディスクとプレート2」には、この道具により初めて可能になったジグザグ組、円形螺旋組など、従来の組物の概念を覆す様な新しい組紐の制作方法が記載されている。

## 5. 組物複合材料

繊維強化複合材料に関しては、ニュースレター6号に記載されているように、約40年前よりその概念が登場し、ようやく飛行機の主構造部材として利用されるまでになったが、組物を複合材料の世界に適用した人といえば、F. Ko 教授が挙げられる。

複合材料の世界では、図1に示すようなシンプルな丸打組物が基本構造としてよく用いられている。この丸打組物が用いられる一番の原因は、繊維が比較的まっすぐに配向し、すべての繊維が連続しているため、複合材料として一番重要な高い力学的特性が得られやすいことにある。また、円筒構造を自動的にかつ比較的容易に早く作ることができるため、複合材料の構造部材を作製しやすいことも、よく用いられている原因の一つである。1989年に書かれた彼の著書である Ko(1989)「Handbook of Industrial Braid」

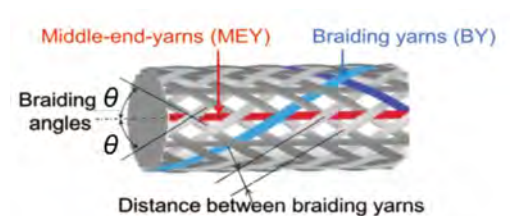


図1 丸打組物

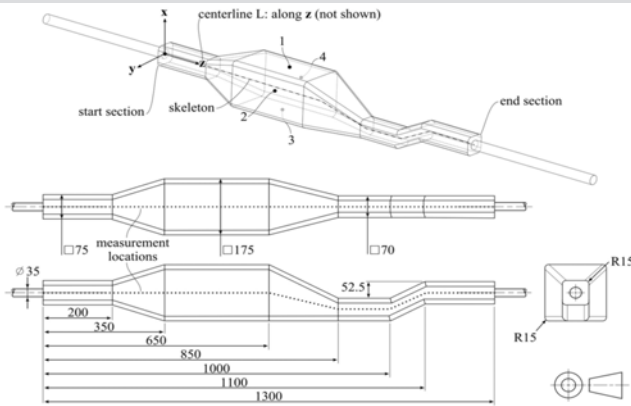


図2 複雑形状を有するマンドレル

では、丸打組物の基本的な構造を幾何学的に表現し、様々な繊維材料を使用し、ヤーンの形態を選定してどのような機械でどのように動かせば組物複合材料の構造部材のための強化形態が得られるか、について生産側の観点より丁寧に解説されている。また得られた組物複合材料の基本的な力学的特性についてどのように予測するかに関しても専門的に述べられている。また丸打組機だけではなく、複合材料に適用可能と考えられる様々な組物、組機についても言及がなされている。例えば複合材料においては厚肉の構造部材が必要となる場面が数多くあるが、厚さ方向に繊維が配向した厚肉の組物（三次元組物）を作製する機構についても詳しく述べられている。このようにこれから組物複合材料の勉強を始める人から、実際の製造やその力学的特性にまで包括的に基礎知識を得たい人まで、非常に有益な本となっている。

少し難しくなるが学術的な観点の文献に関しても解説したい。Ko 教授の後、数は少ないが様々な研究者が組物複合材料に関して研究を行ってきた。ヨーロッパでは、どのようにものづくりをおこなっていくかに着目してなされている研究が多く、組物技術を用いて求める形状、求める繊維配向角度にどのようにデザインし、生産するか、に関して研究がなされている。そのうちの著名な一人である Akkerman (2013) の研究について紹介する。

複合材料の強化形態として織物、編物、組物などの繊維加工品を用いたテキスタイルコンポジットに焦点を絞った国際会議 TEXCOMP (2013年9月にベルギーにて開催) で発表された研究内容である [2]。彼のいくつかの研究テーマのうちのひとつが、組物を複雑な形状に賦形した場合の繊維配向シミュレーションである。この研究では、図2に示す断面形状が連続的に変動し、軸心も変動する複雑な形状の芯金（マンドレル）に対して、コンピュータ上で丸打組物を賦形した場合に、どのような組機の設定で、どのように繊維が配向するかをシミュレートしたもの（図

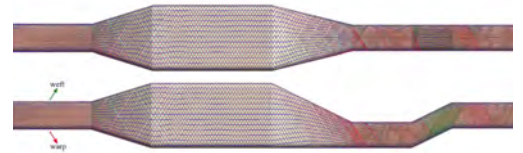


図3 繊維配向シミュレーション結果



図4 繊維配向実験結果

3) となっている。図4に示すのは、実際に作製した組物であり、結論としては予測した繊維配向と大きなズレはないとしている。しかし、その差は組角度で最大10度もあり、最新の繊維配向シミュレーションでも完全にうまく合わせこみができていないのが現状となっている。

その主な原因としては3つ考えられ、1つ目は「摩擦」、2つ目は「繊維束の断面積」、3つ目は説明が難しいが、専門的な言葉でいうと「過渡応答」、が考慮されていないことにあると考えられる。1つ目の摩擦とは具体的には、繊維束と繊維束、もしくは繊維束と複雑形状を有するマンドレルとの間の摩擦であり、これは組物作製時のテンションや繊維束の断面形状によって影響をうけるものであるため、予測が難しい。2つ目の「繊維束の断面積」であるが、繊維配向シミュレーション上は繊維束の断面積は考慮されておらず、1次元の「線」として表現されているため、厳密には実際のもとの幾何学的なズレが生じたり、前述した摩擦に影響を及ぼすため、繊維配向が予測しきれない原因となる。また3つ目の「過渡応答」に関してであるが、一定の組角度で同一形状を有するマンドレル上に組物を作製した場合、すなわち「定常状態」で組物を作製した場合、繊維配向シミュレーションを用いるとかなりの精度で実測値と合ってくると思われる。しかしマンドレルの径が変化したり、組角度を変化させるといった「非定常状態」が生じた場合、単純な幾何学的な予測値と実測値との間で

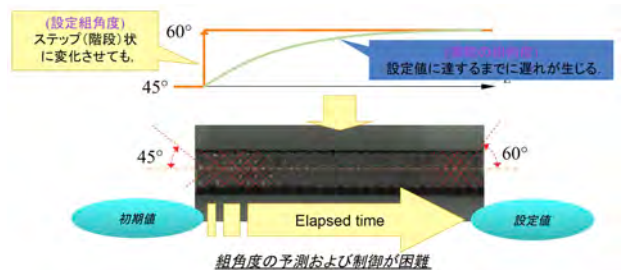


図5 組角度の変化

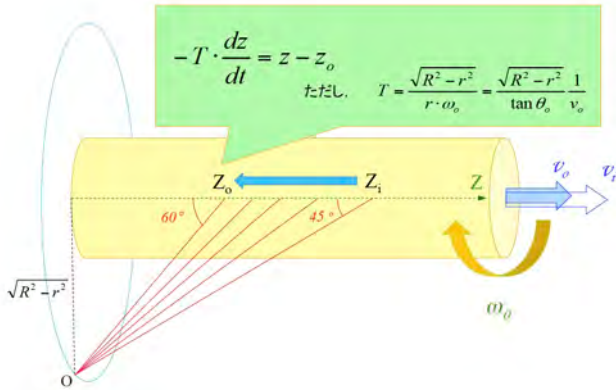


図6 過渡状態における組成点の移動

差が生じることがわかっている。その内容に関して述べた研究についてごく簡単に紹介する。

組物複合材料の代表的な特徴である組角度の変化に着目すると、組角度を変化させることにより、複合材料の力学的特性を変化させることができるが、図5に示すように、例えば45度から60度へ組角度を変化させる場合、組機の設定上はその境目が明確なステップ状(45度の設定→60度の設定)であるのに対して、実際の組角度は急には変化せず、時間をかけて徐々に変化する。西本博之・大谷章夫・仲井朝美(2012)では、この「過渡状態」の組角度と「定常状態」における組角度を精度良く予測、制御することを目的とした。組物作製機構を幾何学的に考慮し、組角度の設定値を変化させた直後の過渡的变化を予測する数式モデルを開発し、実際の組角度との比較検討を行った。詳細は割愛するが、図6に示すように、角度が変化する場合にマンドレル上で組物が組織される点(組成点)が移動することに着目し、その移動速度を時定数(T)で表現することにより、過渡状態の組角度を数式化した。これにより、図7に示すように過渡状態における繊維配向角度の予測が可能となった。この理論を導入することにより、これまでできなかった組角度やマンドレル形状変化時の過渡状態における組角度変化を明らかにできると考えられることから、非常に有意義な研究成果であるといえる。

また今村勝(2014)では、繊維束の断面形状を考慮し

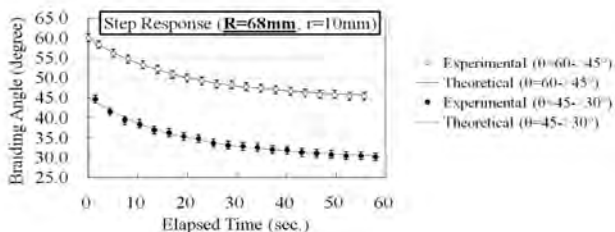


図7 角度変化時の実験値とシミュレーション結果

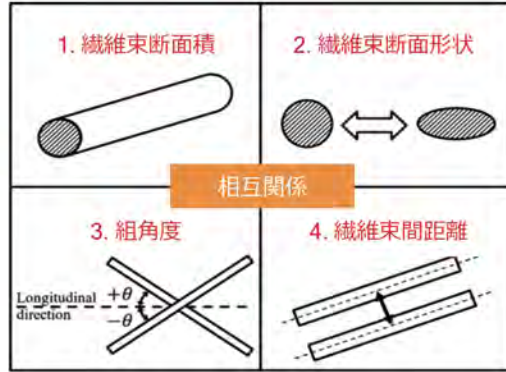


図8 内部構造パラメータとその相互関係

た組物の内部構造予測に関しても検討が行われている。これまでの研究において組物の内部構造は繊維束断面積、繊維束断面形状、繊維束間距離、組角度の4つの内部構造パラメータで決定されることが明らかとなっている(図8)が、これらのパラメータは相互に影響を及ぼし変化するため、繊維束断面形状を考慮した組物複合材料の内部構造予測は難しいことが知られている。そこで彼らは組物複合材料の寸法設計および構造設計手法の確立を目的とし、繊維束間距離を制御し、定量的に増加させながら組物複合材料を実際に作製し、繊維束間距離に伴う繊維束断面形状、繊維束断面積の変化について定量化した。さらに得られた繊維束形状や組物の厚みなどのデータベースを繊維束間距離の関数として表し、内部構造パラメータ予測手法として構築、提案した。これまでの繊維配向予測やシミュレーションの研究では組角度のみが予測されていたが、繊維束の断面積や断面形状を考慮することにより、厚さ方向の予測も可能となり、最終的には有限要素法解析にそのまま適用可能であるため、力学的特性が高精度で予測可能となると考えられる。本研究はこのようにこれまで行われてこなかった繊維束の断面形状や断面積を考慮した組物内部構造シミュレーションを成し得たことから、組物複合材料の研究において非常に有意義なものであるといえる。

以上のように、組紐・組物が複合材料の世界に導入された後、実際のものづくりにより作製された組物構造を把握、予測する手法が年を追うごとに徐々に進化してきた。これらの研究が、組物複合材料のさらなる発展、普及につながることを期待する。

## 引用文献

- (1) 菅沼晃次郎・山本薫・太田藤三郎(1969)「くみひも」民俗文化研究会、207頁、定価表示無し(実物が3点添付されている)
- (2) 正倉院事務所:編(1973)「正倉院の組紐」平凡社 9784582-249019、308頁、40000円
- (3) 山本薫(1978)「くみひもの研究」総合科学出版、250頁、2000円

- (4) 松本包夫・今永清二郎(1992)「組紐」日本の美術 No. 308 至文堂, 98 頁, 1480 円
- (5) 西城志郎 (2003) 「秀衡公の組紐 - 中尊寺の組紐 -」悠研研究所, 134 頁, 1200 円
- (6) 組紐・組物学会: 監修(2011)「組紐と組物」テキスト, 9784925252317, 58 頁, 2000 円
- (7) 鷹司誓玉(1972)「唐組平縫」制作:日本教育産業センター販売:平凡社, 164 頁, 8800 円 [限定 500 部]
- (8) 高田優男 (1974) 「スライド伝統工芸染織篇 [13] 唐組」衣生活研究会, 本文 30 頁, スライド 60 枚, 16000 円
- (9) 第一出版センター: 編 (1981) 「喜多川平朗・深見重助 重要無形文化財 有職織物・羅・唐組 人間国宝シリーズ 17」講談社, 9784061452177, 40 頁, 1200 円
- (10) 木下雅子 (1994) 「日本組紐古技法の研究」京都書院, 9784763640574, 360 頁, 30000 円
- (11) 木下雅子 (2010a) 「クテ打組紐技法入門」クテ打組紐技法研究会, 26 頁, 非売品
- (12) 木下雅子: 監修 (2010b) 「クテ打組紐技法入門」クテ打組紐技法研究会, DVD 28 分, 非売品
- (13) 山岡一晴(1975)「道明の組紐 丸台・四つ打ち台」主婦の友社 131 頁, 1800 円
- (14) 山岡一晴 (1976) 「伝統の組紐 道明の高台・綾竹台」主婦の友社, 155 頁, 2000 円
- (15) 宇都宮千枝 (1975) 「くみひも ひもの世界と作り方」泰流社 9784812101131, 121 頁, 1800 円  
(1995 年の新装版 (定価 2000 円) から副題がついている)
- (16) 酒井愛子 (1976) 「絵を見てわかる・くみひも 本科~師範科課程」日本ヴォーグ社 9784529002158, 96 頁, 980 円 (改訂版が 1980 年にでている)
- (17) 酒井愛子 (1977) 「くみひも (手作りシリーズ 15)」日本ヴォーグ社, 120 頁, 980 円
- (18) 酒井愛子 (1978) 「絵を見てわかる・くみひも 専攻科~高等師範科課」日本ヴォーグ社 9784529017749, 102 頁, 980 円 (改訂版が 1981, 1983, 1986 年にでている)
- (19) 原野光子 (1979) 「絵を見てわかる・角台のくみひも」日本ヴォーグ社 9784529002127, 86 頁, 980 円
- (20) 酒井愛子 (多田牧子) (1980) 「絵を見てわかる・くみひも 楽しくできる丸台・角台・綾竹台」日本ヴォーグ社 9784529002042, 134 頁, 1480 円 (1991 年の改訂版から多田牧子が共著者に加わっている。また英語化された複製版も Lacis から刊行されている)
- (21) 岡村加代・酒井愛子 (1981) 「くみひも配色実例集」日本ヴォーグ社, 9784529002066, 80 頁, 3800 円
- (22) 藤田昌三郎 (1981) 「組紐を設計する」美術出版社 9784568321203, 115 頁, 1944 円
- (23) 酒井愛子・多田牧子 (1983) 「綾竹台上級教本」テキスト 9784925252027, 80 頁, 4000 円
- (24) 多田牧子 (1996a) 「丸台の組紐 120 組紐総覧 1」テキスト 9784925252119, 176 頁, 5000 円
- (25) 多田牧子 (1996b) 「アンドスの組紐 120 組紐総覧 2」テキスト 978-4925252126, 134 頁, 5000 円
- (26) 遠藤てる (2003) 「組みひも・作業療法への適用法」共同医書出版社 978476392110X, 118 頁, 3500 円
- (27) 中内祥雄・原野光子 (1976) 「伝統の組みひも」マコー社, 161 頁, 1800 円
- (28) 原野光子 (1977) 「組みひも」保育社, 151 頁, 430 円
- (29) 岡村加代 (著) 廣澤徳三郎 (監修) (1976) 「組みひも」主婦と生活社, 180 頁, 1800 円
- (30) 日本伝統芸術協会(1977)「白鳳組紐」講談社, 164 頁, 2500 円
- (31) 長沼静 (1980) 「伝統的な日本の手工芸 美しい組紐 上・下」(32) 泰流社, 上: 139 頁, 下: 130 頁, 1600 円
- (33) 所鳳弘 (1978) 「伝統工芸くみひも」中日新聞本社, 159 頁, 1800 円
- (34) 所鳳弘 (1980) 「草木染くみひも」中日新聞本社, 207 頁, 10000 円
- (35) 所鳳弘(1983)「教本くみひも 丸台編」大垣ユネスコ協会, 79 頁.
- (36) 平田 環 (1985) 「平田環の組紐 Ⅱ」私家版 64 頁
- (37) 平田 環 (1990) 「平田環の組紐 Ⅲ」私家版 64 頁
- (38) 平田 環 (2000) 「平田環の組紐 Ⅳ」私家版 64 頁 (各巻とも限定 1000 部)
- 三浦弥生 (1986) 「組紐高麗図形の手法」私家版 978487601101X, 79 頁, 5000 円
- (39) 三浦弥生 (1988) 「組紐高麗図形作例集」私家版 9784876011605, 82 頁, 8000 円
- (40) 三浦弥生 (1990) 「組紐高麗図形作例集 (追補)」私家版 9784876012059, 62 頁, 10000 円
- (41) 多田牧子 (1998a) 「高台の組紐 1 組紐総覧 3」テキスト 9784925252133, 162 頁, 5000 円
- (42) 多田牧子 (1998b) 「高台の組紐 2 組紐総覧 4」テキスト 9784925252140, 166 頁, 5000 円
- (43) 多田牧子 (2002) 「高台の組紐 3 組紐総覧 5」テキスト 9784925252157, 162 頁, 7000 円
- (44) 山本昌義(1927)「組紐の研究」日本糸物新報社, 241 頁, 25 円
- (45) 道明新兵衛 (1973) 「ひも」学生社, 204 頁, 860 円
- (46) 泰流社(1978)「組紐—日本の美を組む伝統工芸 (日本の染織別巻 1)」9784884702649, 212 頁, 2800 円
- (47) 額田 巖 (1986) 「ひも (ものと人間の文化史 57)」法政大学出版局 9784588205712, 234 頁, 2000 円
- (48) 鈴木美登里 (2012) 「糸組みのみち - クラクラフに惹かれて」終風舎, 200 頁, 3000 円
- (49) 菅沼晃次郎 (1978) 「京くみひも」全京都組紐連合会, 486 頁, 5400 円
- (50) 土山弥太郎(1980)「組紐 東京の帯締め羽織紐」私家版 132 頁
- (51) 三重県組紐協同組合記念誌編集委員会: 編 (1989) 「伊賀くみひも伝承の譜」三重県組紐協同組合, 78 頁, 非売品
- (52) 中山あや (1979) 「組紐ジュエリー」, 美術出版社 160 頁, 3200 円
- (53) 佐橋慶: 編 (1988) 「EXQUISITE 新しい組紐の世界」講談社インターナショナル 9784770013434, 120 頁, 2800 円
- (54) 柿元久美子 (1995) 「ゆめをくむ」紫紅社, 9784879405333, 96 頁, 6000 円
- (55) 多田牧子: 監修 (2002) 「組みもディスクでかんたん!組みものアクセサリ(きっかけ本)」雄鷄社 9784277490160, 56 頁, 280 円
- (56) 多田牧子: 監修 (2004) 「組みもで作るアクセサリと小物—組みもディスクと組みもプレートで簡単&スピーディー」雄鷄社 (2004) 9784277430357, 60 頁, 734 円
- (57) 多田牧子: 監修 (2010) 「組みもディスク&プレートで作るかんたんミサンガ Book」成美堂出版 9784415108681, 72 頁, 800 円
- (58) 多田牧子: 監修 (2013) 「かんたん組みもアクセサリ」日本ヴォーグ社 9784529-052337, 32 頁, 1400 円
- (59) 多田牧子: 監修 (2014) 「かわいい組みもの教科書」誠文堂新光社 9784416314043, 160 頁, 1500 円
- (60) 多田牧子 (2007) 「組紐ディスクとプレート 組紐総覧 6」テキスト 9784925252164, 101 頁, 3000 円
- (61) 多田牧子 (2013) 「組紐ディスクとプレート 2 組紐総覧 7」テキスト 9784925252171, 105 頁, 3000 円
- (62) Head, A. A., Ko, F. K. and Pastore, C. M. (1989). Atkins and Pearce Handbook of Industrial Braiding. Atkins and Pearce Inc.
- (63) Ravenhorst, J. H. van and Akkerman, R. (2013). Optimisation of the circular braiding process, Proceedings of CompositesWeek@Leuven and TexComp-11, 2013.9.16-20, Leuven.
- (64) 西本博之・大谷章夫・仲井朝美 (2012) 円柱状組物における繊維束配向の過渡的変化予測モデル. 繊維学会誌 68(2), 27-32.
- (65) 今村勝 (2014) 「組物複合材料における内部構造パラメータの相互関係解明とその予測手法の確立」京都工芸繊維大学修士論文



## 組紐・組物展 高知グループ 2014.4.1～4.6



4月1日から6日まで高知市文化プラザ「かるぽーと」にて、小嶋博子本学会副会長を代表とする45名の皆様による組紐・組物展が開催されました。

高知での組紐・組物展は2000年に牧野記念館で開催された後は2008年から3年ごとに行われ、今回で4回目となります。高知と香川の皆様が主な出品者でしたが、過去に組紐・組物学会賞や優秀賞を受賞した作品を始め、高知在住以外の学会員18名の作品も展示されました。

展示会場となった高知市文化プラザ7階の市民ギャラリー第3展示室は、広くて気持ちのよい空間で、それぞれの作品がのびのびと展示されていました。「今

回は組物の多様性を楽しんでいただけるよう、制作に使う道具・素材に工夫をこらしました」とのことで、作品はすべてレベルの高い素晴らしいものでした。また、昨年のシンポジウムでの複合材料ワークショップで製作した炭素繊維複合材料を用いた作品も、その後新たに制作・展示され、来場者に好評でした。

テレビや新聞でアナウンスされた効果もあり、多くの来場者で大盛況になりました。作品展示の他に、4月2日にはレクチャーとワークショップ、さらに豪華な懇親会もあり、高知の皆様にご組紐・組物を楽しく知って頂くことができた展示会となりました。



## 第5回組物検定 京都

第5回の組物検定試験は2014年12月13～14日に京都工芸繊維大学で行われる予定です。本年度は1,2,3,4,5級の検定試験を実施します。

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が2010年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はありません。

検定基準となる各級の技術到達度および試験範囲は以下のとおりです。

■5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的スキルと知識があるか。

■3級：クテ打初級、綾竹台初級、丸台など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。クテ打：「秘伝系組」「真野家伝故實系組手附」から復元された手操作技法(基礎技法)現存指操作技法(3基本組紐)

■2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、指導者の補佐ができるか。

クテ打：「秘伝系組」「真野家伝故實系組手附」から復元された手操作技法(基礎技法)から少しはみ出した基礎技法(鎌倉時代の遺品に用いられている技法)

なお2級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

綾竹台作品3本以上

(2年以内に制作したものが望ましい)

高台1枚物作品3本以上

(2年以内に制作したものが望ましい)

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

■1級：クテ打上級、高台2枚物、唐組台など。

組物について高度な専門的スキルと知識を持ち、指導する実力があるか。

クテ打：「クテ打組紐技法入門編 3基本組紐の組み方」、「クテ打組紐技法入門編 2基礎技法」

「クテ打組紐技法入門編 3追加基礎技法」、「クテ打組紐技法 連結技法」

なお1級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台2枚物作品3本以上

(2年以内に制作したものが望ましい)

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

昨年度は1・2・3・4級で、各級とも筆記と実技の試験が行われ、12名の方が受験しました。

筆記試験は獲得点数により判定します。昨年度の合格ラインは4級が80点(平均76点)、3級が70点(平均78点)、2級が70点(平均73点)、1級は80点(平均86点)でした。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さで組まれているか、動作と出来映えの3つの観点からA, B, Cの3段階評価とし、A, Bが合格となります。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

受験を希望する方は、住所、氏名、電話番号、メールアドレスをFax、電子メールまたは葉書で学会事務局までお送り下さい。受験料は7350円(絹糸の材料費を含む)です。銀行振込または当日の現金払いも受け付けます。

組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院伝統みらい教育研究センター内  
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax: (075)724-7844、 E-mail: inoda@kit.ac.jp



## 京都第1回ワークショップ詳細案内

今回は5月24日(土)の総会に合わせてその前後に4月と6月分のワークショップを行います。

### ■5月23日(金) 10:00～16:00

アンデス現地の方法、つまり手だけで丸角紐を作ります。「アンデスの組紐」講師：青柳淑枝

材料費+ワークショップ維持費：1100円の予定

参加費：組紐・組物学会員無料、一般2000円

ご持参いただくもの：筆記用具、鋏、組紐ディスク

### ■5月25日(日) 10:00～16:00

組紐ディスクで新しい、面白い組紐を作ります。

「おもしろい組紐」講師：古澤陽子

材料費+ワークショップ維持費：2000円の予定

参加費：組紐・組物学会員無料、一般2000円

ご持参いただくもの：筆記用具、鋏、組紐ディスク

■会場：京都工芸繊維大学 総合研究棟4階

■申込み締切：5月15日まで

■お申込み・お問合せは 組紐・組物学会事務局

Tel/Fax: (075)724-7844、E-mail: inoda@kit.ac.jp

## 第5回通常総会 京都

本学会の第5回通常総会を開催します。複合材料ワークショップ、世界の組紐のレクチャー、懇親会なども予定されています。今年度は作品展は行いません。

■日時：5月24日(土) 13:00～14:00

■場所：京都工芸繊維大学 総合研究棟4階 多目的室(ワークショップ、レクチャーも同じ)

■主催：組紐・組物学会、レクチャーは京都工芸繊維大学 伝統みらい教育センター(共催)

### ■複合材料ワークショップ

絹組紐の複合材料を作製します。カーボン繊維の造形も行います。講師：大谷章夫

日時：5月24日(土) 10:00～12:00

材料費+ワークショップ維持費：1000円の予定

参加費：組紐・組物学会員無料、一般1000円

ご持参いただくもの：固めてみたい絹(天然繊維)の組紐、その場で組みたい人は組紐ディスクなど。

■レクチャー「世界の組紐」講師：多田牧子

日時：5月24日(土) 14:00～16:30

### ■懇親会

日時：5月24日(土) 17:30～ 会費 5500円

場所：La Pineta(北山通り、松ヶ崎駅2番出口すぐ)

## ワークショップ 京都 2014-2015

### ■第1回ワークショップ(詳細は左カラムを参照)

ワークショップ 10:00～16:00

5月23日(金)「アンデスの組紐」青柳淑枝

5月25日(日)「おもしろい組紐」古澤陽子

### ■第2回ワークショップ&レクチャー

8月8日(金)ワークショップ 10:00～16:00

「クテ打」春日弘子・角浦節子

8月9日(土)レクチャー 9:00～12:00 多田牧子

### ■第3回ワークショップ&レクチャー

10月10日(金)10:00～16:00「検定対応」廣澤徳三郎・小嶋博子・多田牧子

10月11日(土)9:00～12:00 検定対応レクチャー

### ■第4回ワークショップ&レクチャー

12月12日(金)ワークショップ 10:00～16:00

「検定直前ワークショップ&レクチャー」多田牧子

### ■第5回ワークショップ&レクチャー(2015年)

2月13日(土)ワークショップ 10:00～16:00

「筒状唐紐」岡本睦子

2月14日(日)レクチャー 9:00～12:00 多田牧子

## ワークショップ 東京 2014-2015

### ■第1回ワークショップ

5月10日 10:30～16:00 ワークショップ

「アンデスの組紐」青柳淑枝

### ■第2回ワークショップ

7月12日 10:30～16:00 ワークショップ

「おもしろい組紐」古澤陽子

### ■第3回ワークショップ

9月13日 10:30～16:00 ワークショップ

「硬い素材を組む」岡安康子

### ■第4回ワークショップ

11月15日 10:30～16:00 レクチャー Jennie Parry

ワークショップ「組紐プレート」多田牧子

### ■第5回ワークショップ(2015年)

1月10日 10:30～16:00 ワークショップ

「クテ打の組紐」亀井三枝子

### ■第6回ワークショップ(2015年)

3月14日 10:30～16:00 ワークショップ

「ボビンレース」鮫島純子

ワークショップの予定は変更されることがありますので、学会のホームページで最新情報をご確認下さい。

## 被災地の組紐

眠っている丸台をお持ちでしたら、宮城県の子育て支援グループにご寄付下さい。

2011年の東日本大震災後の被災地支援のため日本家政学会から派遣されて、宮城県石巻市の仮設住宅集会場などで、組紐ディスクやプレートによる組紐指導を行って参りました。NPO法人「ベビースマイル石巻」の皆さんもそのワークショップにご参加頂き、組紐作りを楽しんだり、活動資金調達のためバザーなどでストラップの販売をしています。

NPO法人「ベビースマイル石巻」は、平成25年度内閣府子ども若者育成・子育て支援功労表彰で、総理大臣表彰を受けられたNPO法人グループです。本年2月、日本政府観光局(JNTO)からネックストラップ(80cmの長さ)50本製作の依頼等があり、皆さんは頑張って美しいネックストラップ50本を仕上げました。組紐

ディスクで長いネックストラップの組紐を製作するのは、時間がかかり、大変だったと思いますが、楽しんで製作したそうです。そこで丸台の説明を致しましたら、それも挑戦してみたいとのことでした。

もし皆様の所に眠っている丸台やおもり玉などがありませんでしたら、「ベビースマイル石巻」にご寄付頂けないでしょうか?ご協力頂ける方は、直接お送り頂けると助かります。誠に勝手ですが、送料はご寄付ということでご負担下さい。送り先は以下の通りです。お送りいただく時に、ご一報頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。(多田牧子)

986-0871 石巻市清水町 1-5-18-501

NPO 法人ベビースマイル石巻

代表 荒木裕美様

TEL : 0225-24-8304

<http://www.forbabysmile.com/hyousyou.html>



### 役員

#### ■会長

魚住忠司：村田機械(株)

#### ■副会長

仲井朝美：岐阜大学工学部

小嶋博子：組紐研究家

#### ■理事

上田隆久：日本ピラー(株)

大谷章夫：岐阜大学工学部

北村雅之：北陸ファイバークラス(株)

倉谷泰成：(株)カドコーポレーション

多田眞作：(株)テキスト

多田牧子：組紐研究家

寺本 靖：(有)寺本文化財工芸社

濱田泰以：京都工芸繊維大学

濱中知子：ハmanaカ(株)

廣澤浩一：三重県組紐協同組合顧問

圓井 良：圓井繊維機械(株)

渡辺一生：渡敬(株)

### 事務局

猪田宮子：京都工芸繊維大学

## 組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター内

〒606-8585

京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax: (075)724-7844

E-mail: [inoda@kit.ac.jp](mailto:inoda@kit.ac.jp)

<http://www.kumihimo-society.org>

ご入会、ワークショップ、組紐検定、シンポジウム講演、作品・製品展参加のお申し込みはこちらをお願いします。

